

稲作・畑作

営

農

情

報

水稻

【出穂期からの水管理】

出穂当初は、水を多く必要とする時期（10日間くらい）なので、5～6 cm程度の湛水とし、それ以降は2～3 cmの浅水、間断かん水とします。

また、ここ数年は乳白粒やクサビ米等の高温による被害が見られます。これは、刈り取り時期のほ場条件を気にして出穂以降の入水を控える、早期落水するほ場に多く見られます。

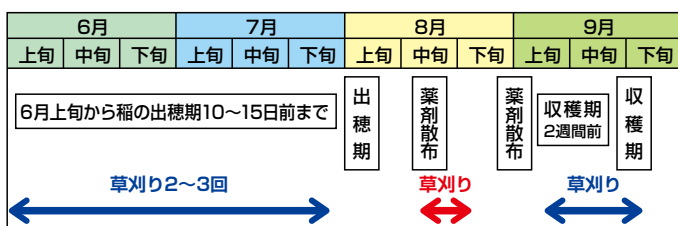
気温が30℃以上の時は、用水が十分確保できる場合は、かけ流し等を行い、地温を下げ、稲体の健全化に努めましょう。

時期	水管理
出穂初め～10日	5～6 cmの湛水管理。水を切らさない。
出穂後11日～20日	根の活力維持のため間断かん水（2日湛水、3日落水）
出穂後21日～30日	田面は足跡がつく程度の硬さ。ヒビ割れで根を切らさないこと。
出穂後31日以降	排水の良否を考慮しながら落水。早い落水は食味低下。

※落水は、出穂後30日を目安に行いましょう。

【斑点米カメムシ類の防除】

- 1回目薬剤散布：スタークル剤またはアルバリン剤の茎葉散布剤を、出穂期10日後頃に畦畔を含めて散布します。
- 1回目の薬剤散布後7日以内に農道・畦畔の草刈りを行います。その後はカメムシ類を水田内に追い込まないようにするため、収穫2週間前まで草刈りをしないようにします。
- 2回目薬剤散布：多発の予報が出た場合や、水田内でノビエやホタルイ類等のカヤツリグサ科雑草が発生しているほ場、休耕田等の雑草地に隣接したほ場では出穂期24日後頃にキラップ剤を畦畔を含めて散布します。
- 法面や休耕田等の雑草地は、稲の収穫2週間前までは草刈りをしないでください。



アカスジカスミカメ		成虫侵入	産卵	幼虫発生
出穂期後日数		0	7～10	21～24 28～34
防除体系	茎葉散布剤（長期残効性）		●	●
	湛水散布剤（粒剤）	●		●

分類	使用時期	使用薬剤	使用量(10aあたり)	使用回数
●	出穂期10日後頃	スタークル粉剤DL	3kg	3回以内
●	出穂期10日後頃	スタークル液剤10	1000倍150ℓ	3回以内
●	出穂期7～10日後	スタークル粒剤	3kg	3回以内
●	1回目散布の14日後頃	キラップ粉剤DL	3kg	3回以内
●	1回目散布の14日後頃	キラップフロアブル	2000倍150ℓ	3回以内

散布時期	使用薬剤	使用量(10aあたり)	使用回数
雑草の生育期	スミチオン粉剤3DL	3～4kg	3回
	スミチオン乳剤	1000倍100～150L	3回

今月のあなたの運勢（2016年8月）



牡羊座 (3・21～4・19)

楽しいことに幸運が。旅行や飲み会など、レジャーに誘われたら気軽にOKし、出掛けてみて。創作活動も◎

2016. 8月号

しらかみ 